

Responsible Care NEWS

2020 夏季号



レスポンシブル・ケア®



一般社団法人 日本化学工業協会

第29回 定時総会開催

5月22日(金)、第29回日化協定時総会が開催されました。今回は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令下、Web会議形式により開催されました。Web形式による開催は定時総会としては初めてです。総会は、正会員数256に対し、委任状、オンラインによる出席を含め186名の出席の下で開催されました。

淡輪会長が議長を務め、下記議案について審議が行われ、いずれも異議なく原案の通り承認されました。



議案

1. 報告事項

2019年度事業報告及び決算報告の件

2. 審議事項

第1号議案 2020年度事業計画案及び収支予算案の件

第2号議案 理事25名選任の件

第3号議案 監事2名選任の件

開会にあたり、淡輪会長より次のような退任の御挨拶がありました。『2018年5月に会長に就任しましてからの2年間、「操業及び製品にかかわる安全の強化」、「新たな価値の創造と持続可能な社会の構築への貢献」、「社会とのコミュニケーション強化」という3つのポイントに沿って幅広い施策を推進し、様々な成果を挙げることができたと考えております。足元では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、化学産業にとっても大変厳しい事業環境となっており、予断が許せない状況が続いております。一方で、新型コロナウイルス終息後にはこれまでの社会課題だけではなく、新たな社会的課題や社会ニーズが出現してくる可能性があり、新たな課題、チャレンジングな課題が出現すればするほど、ソリューション・プロバイダーとしての化学産業に対する社会からの要求や期待は、ますます大きくなっていくのではないかと予感しております。今後も、日化協が広く日本の化学工業の発展を図る団体として活動することによって、化学産業がグローバルな社会課題の達成に大きく貢献し、飛躍を遂げることができそうです。ご支援ご協力のほどお願いいたします。』



議事

会議開催に先立ち、議長より日化協独占禁止法遵守ガイドラインを確認し、適法で会議を運営することが宣言されました。

報告事項 2019年度事業報告及び決算報告の件

議長の指示により、渡辺専務が、2019年度事業報告及び収支決算報告の各案は、5月8日までに書面審議による監事の監査を経て、5月11日開催の総合運営委員会、5月13日開催の審議委員会、5月15日開催の理事会におい



淡輪議長は日化協会議室から参加

て、それぞれ承認を得ている旨を報告し、内容について説明を行いました。引き続き、監事を代表して高村監事が、5月8日までに書面審議にて開催した監事会において、2019年度事業報告書及び決算報告について監査をした結果、記帳等はいずれも正確であり、また経費の支出も適正かつ妥当であったことを報告しました。

第1号議案 2020年度事業計画案及び収支予算案の件

次に議長の指示により、渡辺専務が、2020年度事業計画及び収支予算の各案は、3月16日開催の総合運営委員会、3月18日開催の審議委員会、3月23日開催の理事会において、それぞれ承認を得て提案されたものである旨を報告し、その内容についての説明を行いました。

後、議長が本件原案通り承認願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なく原案通り可決承認されました。

第2号議案 理事25名選任の件

次に議長の指示により、渡辺専務が、定款第13条及び第18条第4項に基づき、理事25名の選任につき1名ずつ候補者名を読み上げ、各候補者ごとに議長より原案通り承認願いたい旨が議場に諮られ、全員異議なく、理事25名それぞれの選任が原案通り可決承認されました。

第3号議案 監事2名選任の件

次に議長の指示により、渡辺専務が、定款第13条及び第18条第4項に基づき、監事2名の選任につき1名ずつ候補者名を読み上げ、各候補者ごとに議長より原案通り承認願いたい旨が議場に諮られ、全員異議なく、監事2名それぞれの選任が原案通り可決承認されました。



閉会

議長は以上をもって、一般社団法人日本化学工業協会第29回定時総会の全議事を終了する旨を述べ、議場にその協力感謝し閉会を宣言しました。

社会課題に対する ソリューションプロバイダーとして、 真の持続可能な社会を構築へ

一般社団法人 日本化学工業協会

会長 森川 宏平



世界的な分断や紛争、気候変動、食糧危機などの社会問題による不透明感の中で迎えた2020年は、新型コロナウイルス感染が拡大・長期化し、世界経済へのこれまでにない大きな影響が避けられないと考えられます。コロナ禍においても、健康で快適、便利な生活には、化学産業の生み出す製品・技術が欠かせないことが再認識されたのではないのでしょうか。今後も化学産業が、社会に必要な製品を安定的に提供し、健全に発展していくためには、「製造時」「製品自体」「使用後」という3つの段階での「安全と環境に対する配慮」をより高め、社会から信頼される取り組みを進めていくことが必要です。

これらを確実にを行うことが、持続可能な社会の構築と化学産業の発展へとつながると信じ、それぞれに重点テーマを設定して活動を進めてまいります。

1. 化学製品製造時の安全と環境に対する配慮

化学製品製造時の安全、すなわち工場の保安・安全の確保と、操業における環境負荷の最小化に継続して努めることは、化学産業が存続するための条件であり、引き続き最重要テーマであることは変わりません。

保安・安全の確保の面では、事故情報から得られる教訓やベストプラクティスなどの共有化を引き続き進めるとともに、設備の老朽化や現場熟練従業員の高齢化などへの対応として、スマート保安への取り組み支援などを進めてまいります。

環境負荷の最小化に向けては、グローバルな課題である気候変動対策として、2030年のCO₂削減新目標の達成に向け、事業活動におけるGHG削減について、技術的イノベーション促進を含め、低炭素社会実行計画に取り組みます。

2. 化学製品自体の安全と環境に対する配慮

化学製品自体の安全と環境に対する配慮につきましては、化学品管理を中心として、サプライチェーンをより一層考慮したリスク管理に取り組みます。また、労働安全衛生・物流安全・社会との対話を含むレスポンシブル・ケア活動の推進を重点テーマとして継続いたします。

これまでのグローバル化の急速な進展によって、新たな課題が顕在化する中、業界として、ICCAなど国際会議での活動や、海外業界団体との交流を深めることで、国際連携を強化してまいります。化学製品の有用性・社会的価値など、化学産業が社会課題に対するソリューションプロバイダーであることを発信してまいります。

3. 化学製品使用後の安全と環境に対する配慮

化学製品使用後の安全と環境に対する配慮により循環型社会を構築するためには、幅広い利害関係者を含めた社会全体で取り組むことが必要です。このような課題に対しても、化学産業として、より踏み込んだ活動を進めるため、海洋プラスチック問題対応協議会(JaIME)の活動を発展させていくことを含め、力強く推進いたします。

廃プラスチック問題への対応としては、マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、エネルギーリカバリーという処理法がありますが、今後は特に、CO₂大気放出を限りなく抑えることが重要になる中で、廃プラスチックを資源と位置付けて有効利用することが求められていくでしょう。中でもケミカルリサイクルは、品質の劣化なく化学材料を得られ、繰り返し利用ができるという優位性において社会的意義が高い一方で、技術的・制度的課題も多く存在します。ケミカルリサイクルを、循環経済確立のための重要・不可欠な取り組みとして成立・普及させるための技術開発、社会実装を積極的に推進していく方針です。

新型コロナウイルスへの対応を含め、国際社会は「真の持続可能な社会」を構築するステージに入ってきています。化学産業はそのために重要な役割を担うべきであり、担うことができるはずです。

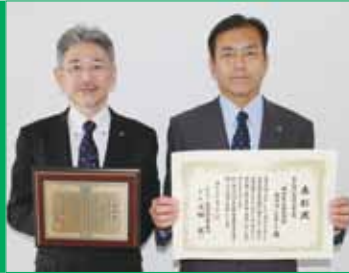
そういったポテンシャルを持つ産業であることに責任感と誇りを持ち、化学産業が創出する社会的価値、イノベーション力を正しく発信して、会長として協会を力強くリードしていきたいと思っております。皆様のご支援を改めてお願い申し上げます。

日化協三賞 受賞各社の紹介

5月15日(金)、日化協安全表彰(安全最優秀賞・安全優秀賞・安全優秀特別賞)、日化協技術賞(総合賞・技術特別賞・環境技術賞)、日化協レスポンシブル・ケア賞(RC大賞・RC審査員特別賞・RC優秀賞)の本年度受賞者が決定しました。各賞の受賞者は以下の通りです。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年実施していた定時総会前の表彰式は中止となりました。

第44回 日化協 安全表彰



安全最優秀賞を受賞した昭和電工(株) 大分コンビナート

【安全最優秀賞】

昭和電工株式会社 大分コンビナート

【安全優秀賞】

株式会社クレハ 本社別館

DICグラフィックス株式会社

東京工場 製造グループ 九州製造課

【安全優秀特別賞(研究所)】

三井化学株式会社 袖ヶ浦センター

【安全優秀特別賞(中小規模事業所)】

ライオンケミカル株式会社

ファインケミカル事業所

第14回

日化協 レスポンシブル・ ケア賞



RC大賞を受賞したダイキン工業(株) 淀川製作所

【RC大賞】

ダイキン工業株式会社 淀川製作所

「仕組みと人に着眼した、全従業員参画の機械安全の推進」

【RC審査員特別賞】

厚和産業株式会社(日本化薬グループ)

「厚和産業における安全文化構築活動」

JSR株式会社 鹿島工場

「配管外面腐食対策プロジェクトの推進」

【RC優秀賞】

住友化学株式会社 三沢工場

「三沢工場のRC活動を事例とした住友化学サステナビリティ推進への取り組み」

積水化学工業株式会社

生産基盤強化センター 安全環境グループ

「安全活動を牽引するキーマンの育成」

東レ株式会社

「火災防止プロジェクトの推進」

三井化学株式会社 名古屋工場

「三井化学名古屋工場 環境負荷低減への取り組み」

第52回 日化協 技術賞



総合賞を受賞した住友化学(株)

【総合賞】

住友化学株式会社

「低環境負荷・併産品フリーのクメン法プロピレンオキシド製造プロセスの開発と工業化」

【技術特別賞】

株式会社クラレ

「プラスチックシンチレーションファイバの開発と工業化」

【環境技術賞】

旭化成建材株式会社

「高性能発泡プラスチック断熱材『ネオマ®フォーム』『ネオマゼウス®』の開発」



第14回

日化協レスポンシブル・ケア賞 受賞各社の活動概要

第14回日化協RC大賞・審査員特別賞・優秀賞を受賞された7社の活動概要を紹介します。



ダイキン工業(株) 前池氏(左)、塔尾氏(右)

賞名	受賞者	表彰テーマ	活動概要
大賞	ダイキン工業株式会社 淀川製作所	仕組みと人に着眼した、 全従業員参画の 機械安全の推進	全員参画のリスクアセスメントを推進し、機械安全の仕組みを定着させ、業務の中に織り込んだ。同時に、現場の声を設備設計に反映させる仕組みも構築。これらの仕組みを着実に運用し、直近5年間は「機械災害ゼロ」を続けている。
審査員 特別賞	厚和産業株式会社 (日本化薬グループ)	厚和産業における 安全文化構築活動	2010年度より、①体験型教育訓練機(愛称:エスペランサ)の製作及び教育システムの構築、②ヒヤリハット活用による職場等の課題発掘、③健康増進プロジェクトに取り組み、2018年度以降、無事故無災害を継続している。
	JSR株式会社 鹿島工場	配管外面腐食対策 プロジェクトの推進	設備の老朽化に加え塩害による腐食が激しい鹿島工場では、微少漏洩事故の発生など保安上の重大リスクが増大していた。そこで、①点検・防食施工、②点検技術検討、③設計・検査基準見直しの3チームからなるプロジェクト体制を構築し、ICT(情報通信技術)やドローンの活用を図り、約3万箇所の1次点検を実施。腐食箇所に対して適切な対応を取って設備事故の未然防止を図った。
優秀賞	住友化学株式会社 三沢工場	三沢工場のRC活動を 事例とした住友化学 サステナビリティ推進 への取り組み	住友化学ではサステナビリティ推進のため、経済価値と社会価値を共に創出していくことを目指しており、三沢工場でも社会価値創出に繋がる「環境負荷低減」や将来の価値創造のため「技術革新」に取り組んできた。環境負荷低減のテーマでは、GHG(温室効果ガス)排出量の削減、排水処理の高度化などに取り組み成果を上げ、ICT技術導入では、ドローンの保安分野への適用やモバイルHIS(プラントの操作監視を行う機器)の積極的活用などに取り組んでいる。
	積水化学工業株式会社 生産基盤強化センター 安全環境グループ	安全活動を牽引する キーマンの育成	積水グループの国内各事業所では、安全管理者と連携して自主的に安全活動を推進するキーマン「セーフティリーダー(SL)」を育成し、そのSLを中心に生産設備の安全に対するリスクの抽出とその改善、及び若手への安全教育を全社レベルで実施。その結果、設備起因の「挟まれ・巻き込まれ事故」は半減し、勤続2年以下の若手の労災も約1/3に減少した。
	東レ株式会社	火災防止プロジェクト の推進	ダクト火災の根絶と大規模爆発火災を防止するため、火災防止プロジェクトを2012年に開始し、海外を含む東レグループで、ダクト火災と可燃物火災を70%以上削減した(ヒヤリハットを含む)。
	三井化学株式会社 名古屋工場	三井化学名古屋工場 環境負荷低減への 取り組み	都市部に位置する工場として、環境負荷の低減を継続的に進めている。特にGHG排出量では大幅な削減(2009年度から2018年度の9年間で約70%削減)を達成した。



厚和産業(株) 日野氏



JSR(株) 若尾氏



住友化学(株) 高濱氏



積水化学工業(株)
小野氏



東レ(株) 岩村氏



三井化学(株) 水野氏

第44回 日化協安全表彰 受賞事業所の紹介

2020年 第44回日化協安全表彰を受賞された各事業所の概要、安全活動の特長、今後の取り組み等を紹介いたします。

昭和電工株式会社

大分コンビナート



- 大分市東部に立地する大分石油化学コンビナートは12社で構成され、その中で昭和電工(株)大分コンビナートは1969年に操業を開始しました。当社のエチレンプラントで生産される石油化学基礎製品はパイプラインを通じて、大分石油化学コンビナート構成企業各社のプラントへ合成樹脂や合成ゴム、化成品などの原料として供給されています。
- 大分コンビナートは、「無事故・無災害を目指し、安全をすべてに優先する」を方針のトップに掲げ、安全・安定・安心プラントを維持する基本となる「凡事徹底」と「大分ワーキングマインド(OWM)」を常に軸としながら、協力企業の方たちとも協働し、一体となって安全活動を推進しています。
- 自分たちの安全レベルを認識するため、去年は2つの第三者評価を受けました。自分たちの弱点を認識し、新たな課題も発見しました。この課題への対応を含め、これからもコンビナート一丸となって無事故・無災害に取り組んでいきます。

株式会社クレハ

本社別館



- 当事業所は1954年に東京研究所として設立され、医薬品開発の拠点であった生物医学研究所を経て、2012年より本社別館となりました。現在は、弊社の製品や化学物質全般の安全性を担う安全性研究・評価センター並びに医療材料開発を目指す医療材料研究所が研究業務を行っています。
- 都心の住宅地に位置する事業所であるため、災害を起こさず安全に業務を実施することは存続に関わる重大な課題です。従業員全員が安全衛生委員会の下に置かれた各種委員会のいずれかに所属し、自主的、積極的に日々の点検、改善を実践すると共に、定期的な安全パトロールや関連資格取得、教育・研修等に取り組んでいます。この全員参加の安全活動が当事業所の特長であり、安全文化の定着と安全基盤の安定化につながりました。
- 当事業所は2020年9月にその機能を福島県いわき市に移転しますが、表彰に恥じぬよう最後まで無災害を継続すると共に、新たな事業所においても活動を継続し、安全な職場形成を進めてまいります。

DICグラフィックス株式会社

東京工場 製造グループ 九州製造課

- DICグラフィックス株式会社は、DICグループの日本国内での印刷インキ事業の製造・販売を担っています。九州地区で生産拠点となる九州製造課は、お客様へタイムリーに安定した製品を提供することを念頭にグラビアインキ、オフセットインキ、金属インキなどの製造を行っています。
- DICグループにおける経営の根幹は「安全操業最優先」であり、その意思を示すため、毎年社長の安全宣言ポスターを製作しています。このポスターには、DICグループに受け継がれてきた「安全基本動作」を正しく理解して確実に実行することが記されています。私たちは、社会から信頼されるDICグループであるために、『決められた手順・ルールを決められた通りに完全に遵守』することを心がけ、無事故・無災



- 害を継続します。
- 今後も、何よりも安全が優先される意識を高く持ち続けるため、全員で安全の重要性を話し合い、不安全行動を摘み取り、不安全箇所を改善することに取り組めます。現状に満足せずより安全な職場環境の醸成を目指し、安全活動を継続していきます。

三井化学株式会社

袖ヶ浦センター



- 三井化学(株)袖ヶ浦センターは、当社グループの中核をなす研究開発拠点であり、1,000名を超える研究者が集結しています。その歴史は、1987年の三井石油化学工業(株)新技術研究開発センターの開所に始まり、1997年の三井東圧化学(株)との合併を経て、現在の最大規模の体制に移行しています。
- 袖ヶ浦センターでは、「安全は研究業務そのものである」との精神の下、指差呼称・ヒヤリハット・KY・リスクアセスメントを基本とし、新規実験・設備導入に対するプロセスセーフティ(反応及びプロセスに係る安全性)とマテリアルセーフティ(取扱化学物質に係る安全性)の確保に努めています。また、労働形態が多様化する中、管理社員の果たすべき安全配慮義務の徹底を中心に、さらなる安全活動の強化を図り、毎日が非常作業である研究開発における事故・労災の完全ゼロを目指しています。
- 今後も安全に研究開発活動を行うために、個々人が自ら考え「安全を作る」人材になり、当社研究開発部門の安全文化を醸成する「プロの研究者集団」として、社会に貢献することを強く意識した安全活動を推進していきます。

ライオンケミカル株式会社

ファインケミカル事業所



- 当社事業所はライオンの100%出資会社であり、主にライオンの一般消費剤(家庭用商品)である衣料用洗剤や柔軟仕上げ剤、台所用洗剤、ハミガキ等の原料を生産し供給しています。また一方では、社外ユーザー向けの化学品原料や製品も生産しています。
- 当事業所の安全衛生活動は、マネジメントシステムを基本としたPDCA管理が主幹をなしており「トップダウンとボトムアップの融合」、「従業員の意見反映」を重視し、活動に取り組んでいます。実施施策は特別なものではなく、「ヒヤリハット(HH)、リスクアセスメント(RA)、危険予知(KY)」等の安全手法を中心に、改善を重ねながら継続的活動を推進しています。
- これからも「無事故・無災害」を維持継続するため、私たちは刻々と変化する環境を捉え、安全を支える「人」の育成や「仕組み」の見直しと充実、また「保全力」、「技術力」の強化に励み、全従業員一体となって着実な安全活動に取り組みます。

Responsible Care NEWS

No.95
SUMMER

Index

一般社団法人 日本化学工業協会 第29回定時総会開催

2

新会長挨拶

3

日化協三賞 受賞各社の紹介

4

第14回 日化協レスポンシブル・ケア賞受賞各社の活動概要

5

第44回 日化協安全表彰 受賞事業所の紹介

6

RC委員会だより

8

R C 委員会 だより

☆会員動向 (会員数：119社 2020年7月末現在)

入会

- ▶ SCC Scientific Consulting Company Japan株式会社(6月1日付)
- ▶ 四国化成工業株式会社(7月1日付)
- ▶ ハイカル・ジャパン(7月1日付)

退会

- ▶ 中外製薬株式会社(3月31日付)

☆行事予定

- 9月4日 SDGs部会(WEB形式)
- 9月24日 リスクコミュニケーション研修(WEB形式)
- 10月19日 RC賞受賞講演会(RC活動報告会)(WEB形式予定)
- 12月4日 SDGs部会(WEB形式予定)

表紙写真の説明

暗闇に映えるトクヤマのVCMプラント

瀬戸内海沿いに走る東海道山陽新幹線の車窓から見える周南石油化学コンビナートの夜景は美しいと言われています。トクヤマもその一角を占め、暗闇に浮かび上がるプラント群は、この街を訪れる人々の心を和ませています。

株式会社トクヤマ提供

編集後記

●● コロナの感染は、夏になっても一向に衰えを見せず、日常生活の全ての面において否応なしに行動変革を強いられています。一方で、今年は例年にない長梅雨となり、その影響で東京地域の夏の前半は比較的のびやかな気温で推移しており、もし今年オリンピックが開催されていれば、熱中症の心配は軽減されていたのではないかとと思われる反面、聖火リレーは大変だったのではないかと気がします。来年、無事開催できることを祈りましょう。

RC NEWSのバックナンバーは、以下のアドレスにてご覧いただけます。

▶ <https://www.nikkakyo.org/organizations/jrcc/rc-news-page>

